

2 3 5

こんにちは。塾長の大井です。

まず初めにずいぶん久しぶりの配信となったことをお詫びいたします。あと 100 日を切った 8 期生の合格への後押しとすべく、満を持して受験戦記を再開いたします。

今回は 6 期生受験戦記第 2 0 回です。

5 期生からの千金の激励を受け、彼らはほぼ理想的な状態で本番を迎えられたと思います。

みな「5 日間しかないんじゃない、5 日もあるんだ」という先輩の言葉を握りしめ、私たちも合否の数点の彼我を超えさせるべく全力で彼らを鍛えました。

意識、細部、意図、そして合格への動きを完全に教えきるのです。

そしていよいよ本番前日を迎えました。

合格へのラストピースとなる 1 点への執念を宿す最後の行事、それが出陣式です。

大手進学塾時代の 2009 年に思い立ったこの式は、本当に特別な空気を生みます。昨日今日出会ったのではない、同じ夢を抱き、長い濃密な日々を共にした師弟だけが共有できる、特別な空間です。

私の乏しい才能の中で、それでも胸を張れるのが、場の空気を生み出す力だと思いますが、今までペアを組んだ相棒たちは皆、この会の雰囲気驚きます。「ダメだ、すばらしすぎる。」「1 人目からこんな泣けるの?」「こんな気持ちになったことはない。」そう言って皆涙していました。(それがまた生徒に火を点けます)

田宮も 2010 年に始めてこの式を共にした時は、「すごいよ、この空気。今までこんな気持ちになったことはないもんな……。大井先生とやってきてよかった。」と誰よりも噛みしめていました。

ただ、TOP で出陣式に臨む私たちが大手進学塾時代と最も違ったのは、泣くための式などではなく、受かるための式にしようという気概でした。ここで完結してしまうのではなく、明日 2 月 1 日に勝つ。その唯一無二の目的に最高の心火を共にする、それこそが狙いでした。

1月31日。

合格への最後の動きを入念に確認し、出陣式の時間になりました。

TOP生みんなも第一志望受験を明日に控え、これまでの想いを私と田宮の合格メダルに寄せ書きします。そして一人ずつ明日への意気込みを語りました。

最後は私から贈る言葉を残すのみとなりました。

「メダルを先生に掛けたい人？」と尋ね、誰よりも早く手を挙げたTくんにメダルを掛けてもらいました。

「明日絶対開成に受かってきます！」

そう力強く言ったTくんと握手をしたまま言いました。

「T、あと2回握手できるから。明日先生が開成に応援に行って1回、そして開成に合格して2回だ。」

そう言って最後に贈る言葉を話し始めました。

(第21回につづく)

2021年10月5日

大井 雄之

